

進路状況

国公立10、私立259

最近5カ年の本校生の進学状況を見ると国公立大学への進学者は地元の茨城大学、筑波大学、茨城県立医療大学、関東地区の宇都宮、埼玉、群馬大学など、毎年20名程度の合格者を出しています。境高校の5つの特色でもある大学や予備校の先生を招聘しての春期英語セミナーやブリティッシュヒルズによる英語教育の充実と土曜課外などの進路指導の充実により、現在の本校生の意欲的な学習活動から国公立大学の合格者数は今後増加する傾向にあります。

また、私立大学の進学状況では、青山学院、学習院、東京理科大学、日本、法政、明治、立教、早稲田大学などの有名難関私立大学も含め250名前後の合格者を出しています。

昔は東京大学をはじめ、旧帝國大学に進学した卒業生が輩出

した旧制中学校の伝統ある進学校という点からも一層の学力向上を図って生徒の進路実現を叶えていきたいと思えます。

蛭雪会の奨学生制度

本会では平成2年度から、成績優秀・人物良好でかつ経済的に大変な生徒への学習支援の一環として、奨学金を交付しています。対象者は、本会役員による奨学生選考会議を経て選考され、各学年1名(全校で3名)で、月額7,000円が交付されます。

これまでに交付した奨学生は40名を数え、それぞれに趣旨を有効に生かして進路決定に貢献してくれています。ここに主な進路結果について年度順に掲載してみます。

★蛭雪会奨学生の進路概況

- ①大妻女子大学文学部進学(女3)
- ②茨城大学理学部進学(男2・女1)
- ③筑波大学第三学群進学(男1・女1)
- ④積水ハウス事務就職(女1)
- ⑤日本大学工学部進学(女1)
- ⑥文教大学教育学部進学(女1)
- ⑦茨城大学教育学部進学(男1・女2)
- ⑧玉川大学工学部進学(男1)
- ⑨福島大学経済学部進学(男1)
- ⑩明治大学政経学部進学(女1)
- ⑪外務省入省(女1)
- ⑫専修大学経済学部進学(女1)
- ⑬法政大学法学科・フジテレビ入社(男1)
- ⑭埼玉大学経済学部・公認会計士(男1)
- ⑮宇都宮大学工学部進学



国公立大学

大学名	合格者数
茨城大学	3
宇都宮大学	2
福島大学	1
北見工業大学	1
茨城県立医療大学	1
千葉県立保健医療大学	1
都留文科大学	1
合計	10

短期大学等合格者数	16
-----------	----

過去5年の進学状況

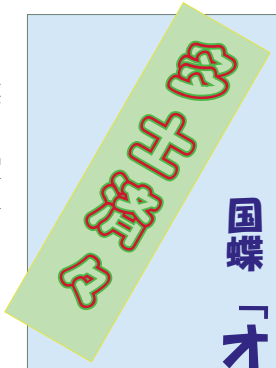
年度	国公立大学	私立大学
H22	18	211
H23	19	264
H24	17	240
H25	14	235
H26	19	251

私立大学

大学名	合格者数	大学名	合格者数
亜細亜大学	2	東京理科大学	1
跡見学園女子大学	2	東邦音楽大学	1
共立女子大学	1	東洋大学	12(2)
玉川大学	1	獨協大学	4
駒澤大学	5(1)	二松学舎大学	1
工学院大学	1	日本女子体育大学	1
国士舘大学	6	日本女子大学	1
実践女子大学	1	日本大学	9(2)
芝浦工業大学	1	文教大学	11
順天堂大学	3	法政大学	3
千葉工業大学	2	立正大学	6
専修大学	3(1)	流通経済大学	13
大正大学	10	麗澤大学	4
大東文化大学	9	青山学院大学	1(1)
拓殖大学	4	立命館大学	3(3)
帝京大学	10	近畿大学	2(2)
東京電機大学	2	その他	112(3)
東京農業大学	1	合計	259(15)

# 国蝶「オオムラサキ」に魅せられて

石山征夫 (高14)



国蝶の「オオムラサキ」をご存じですか。私の蝶とのふれあいは、高校1年生の時、生物クラブで先輩の立川周二さんとの出会いでした。蝶の生息、美しさに魅せられ採取をして見たいと思うようになりました。

当時は、自転車やバスで町内だけでなく筑波山等にも出かけ、約50種類程の蝶を集め歩きました。とても楽しかった思い出です。

昭和51年夏休み、小学1年生になった息子と共に、蝶との第2の出合いが有りました。網を持って町内各地に出かけ、採取をして標本作りを始めました。笠間市の佐白山で、初めてオオムラサキを見つけ1時間余り追いかけて網に納めたときには、胸が弾けそうになった感動を覚えています。三宅島に行ったとき、木や植物の違いで蝶の種類も違い、そこに群がる蝶を見ました。その美しさは又格別でした。

そして、第3の蝶との出合いが来ました。何年か経つと採取した標本も多くなり、何か考えていた矢先、平成12年新聞記事で下妻市の石倉さんが、オオムラサキを飼育している事を知り、早速分けて頂き育て方を勉強しました。好物のエノキの木を植え、鳥やアリ、カマキリ、蜂等に襲われない様にネットを張った小屋を作りました。春先は、幼虫(青虫)は食欲旺盛でエノキの葉を食べつくし餌の心配も大変でした。

何年か過ぎた時、自分だけでなく、多くの人達に見て楽しんで頂くとうと、幼稚園や各小、中学校にもネットの小屋を作り、エノキを植え、春先に幼虫を持って行き、青虫、サナギや羽化して成虫になったところを、子供達の目で見て感動してもらっています。

平成17年NHK首都圏ニュースで放映され、又各新聞にも掲載されました。平成22年は、400頭前後の蝶が小庭中を飛びまわり、時

には帽子や肩、背にとまり幼稚園生や小学生、一般の方々にも喜ばれました。写真や絵を描いたり、質問をしたりして、楽しく学んでいました。時間の有る時は、小学3年生の授業に出向き、生徒と共に勉強し、時にはサナギから羽化し成虫になる瞬間を目の前で見ることが出来、皆さん感動していました。

後日、生徒達から楽しかった事や嬉しかった事、感動した事等、お礼のお手紙を頂き、10数冊大切に保存しております。国内には、250種の蝶が飛ん



国蝶・オオムラサキ

でいましたが、農薬や除草剤の散布、又世界的にも環境破壊等があり、昆虫も少なくなっているとの事です。気候は温暖化の傾向になり、一昨年の夏に「ナガサキアゲハ」が北上して、我が家の庭に飛来し、みかんの木に卵を産みましました。成虫は標本にしました。暖かくなると蝶の飛ぶ範囲も広くなり、私達の所でも甘いみかんが食べられそうですね。平成22年も放蝶しましたが、自然界で生きるのは大変な事です。鳥に狙われ1%位しか成虫になりません。これからも放蝶し町内で見られる様、続けたいと思っております。毎年6月から7月中旬には、小屋いっぱい飛んでいます。興味の有る方は、自由に見学し「オオムラサキ」の美しさを感じて下さい。

## ..... お願い

創立80余年ともなると、卒業生の中にはいろいろな特殊の仕事・趣味をお持ちの方も多と思います。「多士済々」として、ご紹介したく思いますので、自薦他薦でご連絡ください。

また、次ページの「思い出」欄も、いろいろな思い出をお寄せください。



# 第五回全国剣道大会出場

大賀 茂 (高11)

全国剣道大会(秋田大会)に出場したのは、境高等学校創立30周年記念の年、昭和33年8月7日でした。大会に出発する前日に全校生徒による壮行会が盛大に開催され、激励のお言葉や応援歌をいただき、その上、小型トラックでの町内大通りのパレードまで行われたことは、夢のようで、あの感激は今でも忘れる事ができません。

全国大会出場に至るまでに、剣道部で体験したことを振り返って見たいと思います。

私は、学校教育に剣道が復活した2年目の昭和31年に念願の境高



筆者・選手宿舎前で

の剣道部に入部、顧問の田中義雄先生から、道場は心と技を磨く神聖な所、だから、1年生はその価値ある床磨きを重点的にやること、そして、正座をしての見取り稽古や基礎基本練習を疎かにしないでコツコツ続けること等々、親身に教えて頂きました。私たちは、先生のお話を聞いてさらに意欲的に練習に励みました。

2年生時は、春・夏の休み2回、東京教育大学(現筑波大学)剣道部の優勝選手2名を指導者に招いて猛特訓の強化合宿をしました。

この合宿の指導者には、大学生以外に学校から田中義雄先生・山田貞一郎先生・水越晃先生・その他、県会議員の先代中村喜四郎先生・元警視庁の日毛賢一郎先生・現国体の高野選手・境警察署高段者2名の先生方がおられました。その先生方から厳しい中にも、剣道の基本や試合の駆け引きや心構え等の奥義まで親切にご指導頂いたこと



は忘れられません。

3年生の時は、年度初めに、監督の田中先生から、今まで練習してきた成果を思う存分發揮できれば優勝も夢ではないと言われた。そこで、私達は、夢の実現を目標にチーム一丸となつて有終の美を飾れるよう意欲的に練習することを誓い合つた。田中先生は、私達のチームワークをさらに一層深め生かすためには、「先生と生徒の信頼関係の構築が重要と考えて、私達を自宅に招待して奥様の手料

理を御馳走して下さいました。とても美味しかった。先生や奥様の心優しいオモテナシには感謝・感激をしました。同じ釜の飯を食つたことで不思議なことに仲間は一層親密さを増し、先生とも仲間とも、親身に話合いをすることが出来るようになった。その話の中で先生から物事は考え方一つで「ピンチはチャンス」にも変えられると言われた。この教えは後々まで、大いに役立ちました。

そして、6月の新人大会・7月の全国大会県予選の2大会とも旅館に宿泊をして大会に出場しました。大会会場前日の会場準備のお手伝いや当日早朝の体育館外回り掃除のお手伝いもしました。そこで得られた効果は「精神的な達成感や爽快感」を味わう体験ができたことです。その良い気分ですべてに臨めば最大に力が発揮できると先生は考えていたのです。そのお蔭で六月の新人大会、7月の全国大会県予選とも見事に連続優勝を果たしました。先生に心から感謝と御礼を申し上げます。

恩師に合掌!



OB 職員の声

『愛する母校』

『境高校勤務に感謝』

野村正昭 (高26)



「光陰矢の如し」とは申しませんが、本当に年月の過ぎるのは速いものです。今、振り返って見れば私が念願の母校境高校の教壇に立つことができたのは、平成3年の桜満開の4月でした。あれからすでに25年の月日が流れ、今年で還暦を迎える歳になってしまいました。

初めて高校教師になり近隣の高校に13年勤務させて戴き、その後、恩師の先生のお力添えがあつて念願の境高校に勤務できることができた。最高の人生を送らせて戴き同窓生や級友には申し訳ないと共に感謝の気持ちで一杯です。

私の教員生活38年間のうち何と18年間も母校境高校に勤務でき、私の家族（妹や2人の娘たち）も境高校にお世話になることもでき

ました。妹は卒業後地元の小学校の教員になり、2人の娘たちは医療系の大学を卒業し医療現場で頑張っています。本当に境高校には公私ともにお世話になりました。

また、娘たちがお世話になっていてる時期はご指導戴いている境高校の先生方に微力ながらも支えになればと思ひ積極的にPTA役員も引き受けさせて頂きました。

思い起こせば私が昭和46年に境第2中学校を卒業し、歴史と伝統を有する地元の旧制中学校である境高校に入学させて戴いてから27年間という長い年月を母校境高校と苦楽を共にできたことが最高の喜びです。

今後は長きにわたつて最愛の母校に教育して戴いた感謝と恩返し  
の気持ちを持ち続け退職後も地域  
社会に貢献していく所存でおりま  
すので同窓生の皆様どうぞよろし  
くご指導ご鞭撻の程をお願い申し  
上げます。

会報発行費にご協力ください！

1面の会長挨拶にも記しましたように、今年より、同窓生の活躍の様子や、学校の近況などをお知らせし、お互いの交流や親睦を深める一助とすべく同窓会報を発行することと致しました。本来は全会員の皆様にお送りすべきところですが、今回は、初めての作業ということもあり、また、予算の不足・名簿の不確定などから、内容も少なく、配布対象も旧中1回生から高校25回生（還暦の歳）までと、現・旧教職員の皆様に限定し、5,600部を発行いたしました。これから徐々に部数を増やし内容も充実させて、全会員の皆様にお届けできるよう努めたく思いますのでご了承ください。

また、今回の会報発行の費用は、同窓会の年間の予算では賄いきれないため、積立金より一時借用する形で発行しています。

そこで、今回お届けした皆様には、恐縮ですが会報発行の賛助金として、原則、1口1,000円のご寄付をご協力いただければと思います。なお、複数口ご寄付いただければさらにありがたく思います。賛助者のお名前は、次号にてお知らせさせていただきます。

また、会報はホームページにも載せますので、他の会員の方たちにもお知らせいただければ幸いです。（境高校のホームページ <http://www.ibk-sakai-h.ed.jp/> の中の「卒業生の皆様へ」→「蛭雪会」を参照下さい。）

なお、ご不明のことがあれば、以下まで連絡ください。

\*蛭雪会事務局 Tel 0280-87-0123 Fax 0280-87-5688

編集後記

新体制の下、念願の境高同窓会報がいよいよ創刊の運びとなりました。

卒業生が高校現役当時に活躍した様子や現在の活躍の様子、そして現役高校生達の活躍の様子を、設立以来87年の間に培わ

れた歴史と伝統の上に重ねてみることで、境高同窓会の素晴らしさを改めて感じ取っていただけるものと思ひます。

本誌の創刊にご尽力いただいた皆様に感謝しますと共に、今後同窓生の皆様の積極的なご寄稿を心よりお待ちしております。

(木村泰之)